

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白 2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第 31 号 2014 年 3 月 25 日号

久しぶりの雨水吐とマンホール

理事 山下 博

38年間の横浜市役所勤務を終り、首都圏から出る大量の建設発生土のリサイクルを進めている(株)建設資源広域利用センターに2年間世話になり、その後、平成24年7月から日本工営(株)にお世話になっています。東京支店の技術顧問ということですが、主に神奈川県下の横浜、川崎、相模原の3市の都市計画、道路、河川、下水道等の公共事業全般の設計、監理委託事務を行うとともに、本社で上下水道部のメンバーとして勤務しています。



日本工営が共有している特許の一つに、雨水吐における夾雑物の除去率を高めるための「水面制御装置」があります。国内での設置は1500か所を超えるところまで行き、全国にかなり広がっていますが、横浜市は未設置でした。そこで、新規に設置するために参考となるようにいくつかの雨水吐を見ることとなり、私も20年近くは入っていなかったマンホールから、雨水吐室に入りました。最初に入ったのが横浜市の中部水再生センターに入る直近の合流幹線にある構造物であり、縦横で500m²あるようなごついものです。役所の方々と清掃の委託を受けている業者そして我々の社員合計10人が中に入りました。前もってジェット洗浄もすんでおり、既設の横浜市型のスクリーンには夾雑物はかなりありましたが、匂いはあまりひどくはありませんでした。そんな中で約一時間程度関係者が調査を行いながら、意見交換をしました。

現場を見ながら、40年前に下水道局に入りたてであった頃を思い出しました。当時、臨海部工業地帯での既設管調査でのマンホールは踊り場も少なく、足掛金物が腐食して細くなっていたり、

匂いはひどく、ネズミも相当にいました。また、推進工法の初期は内径600mmまで、ヘルメットを推進管にぶつけながら次のマンホールに這ってたどりつくものでした。そんな時代から、今日の下水道を見てみると、施工管理基準も厳しくなり、安全管理が徹底されていますので、いろんな面でほっとできます。また、3月8日に行われたGKPの「マンホールサミット2014」はマンホール蓋の歴史、技術の進歩、芸術性について語られていましたが、今回はマンホールの構造にも入るとのことで、楽しみが増します。

最後になりますが「21世紀水倶楽部」に入会し、広く深くそして楽しく下水道を語る仲間と知り合いになり、幸せな日々を送っています。

2013年度活動報告

NPO 設立 10 周年記念シンポジウム報告

理事 阿部 恭二

当 NPO の設立 10 周年記念シンポジウム「地球環境時代の下水道を考える」が1月14日、東京・千代田区の日本水道会館において開催された。当 NPO の会員をはじめ、国や自治体、民間企業、大学関係者合わせて115名が参加した。

亀田泰武理事長が「NPO 活動 10 年」と題し、当 NPO の来し方 10 年を振り返りながら開会の挨拶を行った後、ゲストとして地球生態学等で数々の栄誉(2008年日本学士院エジンバラ公賞等)に輝く、和田英太郎京都大学名誉教授・総合地球環境学研究所名誉教授を迎え、「地球環境問題と生態系変動」の記念講演が行われた。

この記念講演では、過去 50 年間にわたって上昇を続ける地球全体の炭酸ガス濃度と地球環境変動に関わる主だった人間活動の歩みが示され、それを踏まえて人間は長期的視点を持って地球環境を考えられるかなどといった「気になること」が述べられた。次に、地球環境に関わる科学技術が飛躍的に発展してきたことが



報告されたが、それでも 1972 年にローマクラブが発表した「成長の限界」の警告どおりに進んでいるとの評価も出ていることが指摘された。これに対して和田名誉教授は「こういう状況にあるからこそ、ホモサピエンス（知恵のある人）としての利点をいかに発揮できるかが問われている面白い時代に入りつつある。事態を防ぐために貢献できるのが日本人ではないかと思う」と語った。このほか、琵琶湖水系の N20 の実態や近未来の下水道についても紹介された。

続いて花木啓祐東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授が「新下水道ビジョンの議論と課題」をテーマとして特別講演を行った。花木教授は 2005 年策定の「下水道ビジョン 2100」、2007 年 6 月策定の「下水道中期ビジョン」を解説し、その評価を示したうえで、「新下水道ビジョン」策定の背景を説明した。そして同ビジョンの構成、発信先、現行ビジョンと新ビジョンの関係などを紹介し、下水道事業における電力使用量原単位が減少していないとの問題提起も行った。

この後、当 NPO の佐藤和明理事による「下水処理の今日的課題と展望」の講演がなされ、さらに講師 3 名をパネリストとして「地球環境時代の下水道が目指すもの」をテーマとする総合討論も行われたが、下水道はより強く地球環境問題を意識して取り組んでいく必要があるとの印象を得た。

詳細の開催報告はこちら

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は山下理事ご経歴の横浜市役所、日本工営㈱での下水道管理の現場経験からのお話です。設計、管理に実際の現場からのノウハウが必要なことがわかります。
- 巻頭文は理事・監事の役員の間で執筆を分担しています。昨年総会時に選任された新役員お三方の紹介を兼ねた巻頭文の掲載が今号で終わりました。
- 1 月 14 日開催のシンポジウム「地球環境時代の下水道を考える」の報告文を阿部理事からいただき掲載しました。シンポジウムは当会が設立 10 周年を迎えた記念に開催したものです。
- このシンポジウムでは下水（汚泥）処理から大気中に放散されてしまう強力な地球温暖化ガスである一酸化二窒素についても議論がありました。後刻の懇親会の席でも和田名誉教授から「下水処理の過程でこの有害ガスを処理を」と今後の下水道技術開発の目標になるべき示唆を得ました。講演にもあった細菌による分解は生物処理の下水道技術に格好のテーマかと思いましたが（この項、素人に近い編集幹事子ですので、誰かからご教授いただければ幸いです）
- 会員だよりは今号はお休みです。
- 会員だよりコーナーへの投稿を熱望します。投稿時期はいつでも。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月